

【Post-NICU】

Post-NICU (neonatal intensive care unit : 新生児集中治療室) とは出生時にNICUで命は救われたのち人工呼吸器等の医療的サポートが必要な小児を受け入れる小児医療施設に付けられた和製英語である。「マスコミ用語」から次第に一般用語化しているように思われるが、現在では「Post-NICU」のみでPost-NICU施設のみならずPost-NICU児、Post-NICU問題も含んだ広い意味で使われている。現状ではこの多くのPost-NICUが満床で、不足しているためNICUに患者が滞り、数年前に母胎搬送に支障をきたした事例が続き社会問題となった。

全国で出生後一年以上病院にいる幼児は300-350名で、増えるPost-NICU児が移るべき次の支援施設および支援体制が問題となっている(図1)。そのうち、98%が重症心身障害児で、77%が人工呼吸器等の医療度の高い超重症児である。Post-NICU児の支援施設として重症心身障害施設が期待されているが、新生児・小児医療施設と比べ、医療設備も、医師のマンパワーも劣っている。医療度の高いPost-NICU児を受け入れるためには設備の充実と医師確保が求められ、在宅支援には医療、福祉、行政等が連携した体制づくりが求められている(図2)。長野県では、県立こども病院のPost-NICU児に対応するために専属コーディネーターとして小児科医を採用し、連絡会議等が開かれている。当東長野病院もPost-NICU児の在宅移行に際し、橋渡しをする中間施設として支援をしたいと考えている。

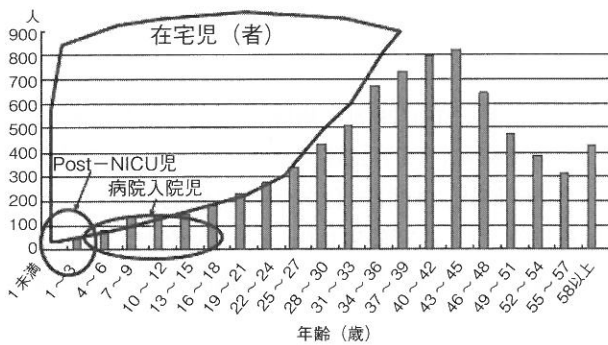


図1 国立病院機構重症児病棟入所者の年齢分布
SMID ネットワーク資料より(2009年3月現在)
(国立病院機構南京都病院 宮野前健先生提供)



図2 Post-NICU児の支援体制

(国立病院機構東長野病院 小林信や) 本誌533pに掲載